Ⅶ　新任教官自己紹介

高 原 栄 重

〔略　歴〕

1924年　徳島県生れ；　1949年　京都大学農学部林学科卒業；　1953年　同大学大学院農学研究科林学専攻専門種目造園学中退；　1952年　大阪府知事室企画課技師；　1959年　建設省計画局都市計画課係長，経済企画庁総合開発局専門調査員，建設省計画局地域計画課計画官，同都市局公園緑地課専門官，山口県都市計画課長，建設省建築研究所都市防災研究室長；　1973年　本州製紙(株)山林事業本部緑化担当部長兼本州緑化(株)常務取締役，本州造林(株)取締役；　1982年　筑波大学教授

五人姉妹の三番目に，ただ一人の男性として生れた。旧家と思われていたせいか見知らぬ村人からも割合に丁重な扱いを受けて育った。昭和20年の２月に陸軍に入り吹雪の中を満州へ渡ったが，本土決戦に備えわずか３ケ月で日本へ帰えり，そのまま終戦になった。

戦争中は，多くの先輩を見習って西田哲学の本などを読んだ。よく分からなかった。いつ死んでもよいように心の準備をしていたのかも知れない。

昭和24年の春，京都大学農学部林学科を卒業した。下宿の近くに修学院離宮があって，暇にまかせてよく散歩に行った。今日のように入園するのがむづかしい時代ではなかったようである。いつ頃からか，こんな庭を自分で設計できるようになったら愉しいだろうなと考えるようになっていた。大学院では造園意匠の研究をした。国家公務員上級職試験に合格し，昭和27年，大阪府知事室企画課技師になり大阪府地方計画のフィジカルプランを担当した。

当時の大阪府知事室企画課は大学を卒業したばかりの，生意気だがたいして知識や経験を持っていない若者達が大半を占めていた。ちょっとやくざの集団のような雰囲気があった。とつぜん地方計画を立案しろといわれても見当がたたないので，手続きをして京都大学から豊崎稔，青山秀夫，武居高四郎の各教授をコーチとして来てもらえるようにした。

３年ほどかかって「大阪府地方計画報告書」を作成した。面白くて学生時代よりよく勉強したと思う。千里ニュータウンの開発もその報告書の中の柱の一つであった。幸いその提案が首脳部の目にとまりそれを実現に移そうということになり，驚いた。それから，蒔いた種は刈り取れといわれ用地買収のための財源づくりに奔走させられた。あとで気がついたことであるが，これがわが国の大規模住宅地開発の第１号，交付公債発行の第１号になっていた。この経験が私の人生の方向を決めてしまったようである。

昭和34年に建設省都市計画課の係長に転勤した。それから経済企画庁に移り中国地方総合開発と新産業都市を，建設省地域計画課では瀬戸内海総合開発を担当した。山口県都市計画課長では新都市計画法が施行になったばかりで市街化区域，市街化調整区域区分の「線引き」を行った。

昭和45年，いままで行ってきた都市及び地方計画の技術的知識を整理したいと考え，建築研究所へ転勤させてくれるよう希望をだした。建築研究所では主として地震火災の性状について研究した。

オープンスペースの防災効果の研究は緒についたばかりで終った。研究に追われて当初の念願である都市及び地方計画技術の洗い直しはほとんど果せなかった。

昭和48年秋，本州製紙(株)及びその関連企業に移った。資本主義社会のメカニズムが少しはわかった気がする。その間，石油火災における熱エネルギー分布性状の研究，法面保護工法の開発研究を続けるとともに，非常勤講師として東京農工大学で「都市計画」を，千葉大学で「土木工学」を講義した。

昭和47年２月，筑波大学農林工学系教授になった。